

6 月のマーケット見通し

<米国・欧州他>

現状、インフレ懸念に伴う米国の利上げと中国の新型コロナウイルス感染拡大に伴うロックダウンの状況が市場の関心事の上位にきている。両ファクターとも株式市場やエネルギー市場への影響が大きく、要注視事項である。ウクライナ危機は膠着状態が続いており、市場の関心は多少後退した感がある。

① 金融政策

5 月 3 日、4 日に開催された FOMC では、予定通り 50bps の政策金利の引き上げと 6 月以降のバランスシートの縮小が決定された。FRB のパウエル議長は、インフレ抑制のため積極的に利上げを実施していく姿勢を見せており、今後の利上げペースが市場の最大の関心事であることは間違いない。ウクライナ情勢やエネルギー市場の動向など不確実な要因が利上げペースに影響を及ぼす可能性は依然残っている。ソフトランディングを目指す FRB の手腕が問われる状況である。欧州においては、インフレ上昇への警戒感から英国が 4 会合連続で利上げを実施し、政策金利を 1%とした。イングランド銀行は、今後のインフレ圧力に警戒感を持っていると表明しており、追加利上げは必至の状況である。イングランド銀行も FRB 同様、景気後退回避とインフレ圧力との間で難しい舵取りを迫られている。また、ECB においても、ラガルド総裁が、第 3・四半期初めに資産購入プログラムを終了する可能性が高く、その後数週間で利上げを実施する可能性があるとして述べており、年内（早ければ 7 月）利上げが必至の状況となった。また、利上げ幅についても、現状では 25bps との見方が大勢であるが、ECB 高官からは 50bps が適切との発言も見られる。ウクライナ危機に端を発するエネルギー価格の上昇を抜きにしてもインフレ高止まりの可能性が強まっており、金利先高観は一層強まっている。

② 中国の新型コロナウイルス感染拡大

新規感染者数にピークアウト感がみられる国・地域が拡大傾向にあり、欧米各国で規制緩和の動きが本格化している。一方、中国では感染者が拡大したため、ロックダウンに踏み切った。上海でのロックダウンが長引き、景気への影響が懸念されていたが、6 月より規制が緩和される旨の発表があった。株式市場やエネルギー市場にとってプラス材料となっているが、依然要注視事項である。

③ ウクライナ危機とエネルギー問題

ウクライナへのロシアの軍事侵攻は、引き続き市場混乱の要因であるが、膠着状態が続く市場への影響度合いはやや後退している。当初は、戦争そのものの市場心理への影響が大きく、リスクオフの動きを加速させ、市場急落の要因となったが、市場の焦点は、エネルギー市場の不安定な推移やそれがもたらす経済への実質的な影響へと移ってきている。西側諸国の経済制裁により、エネルギーの供給サイドの警戒感は払拭されず、エネルギー価格は高止まりの状況にある。今後、ロシアへの追加経済制裁や西側諸国のエネルギー政策/対策の行方をにらみながら神経質な展開は続くであろうが、基本的にはコロナ後のエネルギー需要は拡大傾向にあるとみられる。

④ 企業業績

2022年第1四半期の決算では、決算発表時期の前半に発表されたものについては、オンライン関連や金融セクターで予想を下ぶれる決算もあったが、影響は限定的であった。空運が第2四半期業績に強気の見方を示したことから、他の旅行関連銘柄にも強気の見方が広がっている。但し、決算発表後半になり、インフレ高騰の影響で消費小売関連銘柄が相次いで予想を下ぶれし、株式下落要因となった。

以上見てきたように、市場の調整をもたらす要因の中で最も影響度が強いのは、金融政策である。欧米ともに金利先高観が強く、景気後退リスクの高まりやそれに伴う市場への影響が懸念される。3月以降のロックダウンにより中国経済は大きな打撃を受けた。規制緩和の発表を市場は歓迎しているが、実際収束に向かうのか注視する必要がある。ウクライナ危機およびエネルギー問題についても、ロシア産原油の全面禁輸措置発動の有無など予測困難なことが多く、注視すべき事象のひとつではあるが、市場への影響はやや後退した感がある。

ベトナム株式市場（2022年5月1日～5月23日）

■市況

5月のベトナム株式市場は軟調な相場展開となった。ウクライナでの戦争長期化や米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派色が強まったこと、中国のロックダウンによる経済減速懸念を受け海外株が下落する中、ベトナム株式市場も下落している。5月23日現在VN指数は、前月末比10.8%安の1,218.81ポイントの推移となっている。

■今後の見通し

ベトナムのファンダメンタルズや企業業績は好調。4月のインフレ率は前年同期比+2.6%、小売売上高は同+12%、貿易収支は同11億ドルの黒字となった。最近発表された第1四半期の企業業績も好調。しかし、株式市場は、ウクライナ情勢や原油高などによるインフレ懸念を受けて悪材料を織り込む形で、大幅な下落となっている。今後の相場展開としては、ベトナム株式市場は売られ過ぎ感があり、VN指数の本年度PER予想が11倍台と比較的割安に推移する中、外国人投資家などから買いが入っており、好調な企業業績を背景に今後は戻す展開を予想している。加えて、ニューヨーク証券取引所とベトナム証券委員会との間で、同証券取引所がベトナム株式市場の改善を支持する協力合意に調印したことが、今後の市場の支援材料になると見ている。

以上

筆者 調査部

各国の株価 5/20

銘柄名		株価	前月末比	3か月前比	12か月前比
日経平均株価	NKY	26,739	-1.4%	-1.4%	-5.6%
TOPIX	TPX	1,877	-1.5%	-2.4%	-1.4%
NYダウ	INDU	31,262	-7.5%	-8.3%	-8.6%
SP500	SPX	3,901	-8.7%	-10.3%	-6.1%
ナスダック総合指数	CCMP	11,355	-11.6%	-16.2%	-15.7%
STOXX欧州600指数	SXXP	431	-4.9%	-6.4%	-3.0%
ハンセン指数	HSI	20,717	0.4%	-14.8%	-27.2%
上海総合指数	SHCOMP	3,147	1.9%	-9.9%	-9.8%
MSCIアセアン	MXSO	659	-4.5%	-10.4%	-6.2%
フィリピン総合指数	PCOMP	6,746	-3.6%	-9.1%	8.8%
ベトナムVN指数	VNINDEX	1,241	-10.0%	-17.6%	-3.4%
ジャカルタ総合指数	JCI	6,918	-4.3%	0.4%	19.8%
タイSET指数	SET	1,623	-4.0%	-5.3%	4.5%
インド・センセックス指数	SENSEX	54,326	-5.0%	-6.1%	7.5%

各国の10年債金利 5/20

銘柄名	コード	レート	前月末	3か月前末	12か月前末
日本10年指標債	GJGB	0.24%	0.25%	0.22%	0.08%
米国債10年	USGG	2.78%	2.90%	1.93%	1.62%
ドイツ国債10年	GDBR	0.94%	0.97%	0.19%	-0.13%
フランス国債10年	GFRN	1.47%	1.42%	0.69%	0.25%
スペイン国債10年	GSPG	2.08%	1.94%	1.20%	0.55%

各国の為替レート 5/20

通貨	コード	為替レート	前月末比	3か月前比	12か月前比
米ドル	JPY	127.9	-0.5%	11.2%	17.4%
ユーロ	EUR	135.0	-2.7%	3.7%	1.7%
ユーロ/米ドル	EURUSD	1.1	-2.1%	-6.7%	-13.3%
ドル指数	DXY	103.2	1.9%	7.4%	14.6%
タイバーツ	THB	3.7	-1.8%	4.0%	7.1%
人民元	CNY	19.1	-3.5%	5.0%	12.8%
フィリピンペソ	PHP	2.4	0.1%	9.3%	8.0%
ベトナムドン(100)	VND	0.6	-1.2%	9.6%	16.9%
インドネシア・ルピア(100)	IDR	0.9	-2.4%	8.8%	15.1%
インド・ルピー	INR	1.6	-1.9%	6.9%	10.1%

コモディティ価格 5/20

銘柄名	コード	価格	前月末比	3か月前比	12か月前比
WTI 原油	CL1	113.2	10.9%	24.3%	78.1%
NY天然ガス	NG1	8.1	23.7%	82.4%	178.1%
金スポット	XAU	1846.5	-4.4%	-2.7%	-1.8%
プラチナスポット	XPT	957.2	2.8%	-10.7%	-18.3%
LME銅	LMCADY	9451.0	-6.5%	-5.6%	-4.2%
LMEニッケル	LMNIDY	27941.0	-15.5%	13.5%	66.8%
CBT小麦	WA	1168.8	8.7%	46.0%	77.1%
CBT大豆	SA	1705.3	1.0%	6.5%	28.1%
CBTコーン	CA	778.8	-1.3%	20.4%	40.5%
NYB砂糖	SBA	20.0	3.9%	13.9%	28.8%
NYBコーヒー	KCA	215.9	-5.0%	-11.8%	36.1%